

資料3

報道発表資料
平成28年6月14日
気象庁

第135回火山噴火予知連絡会
口永良部島の火山活動に関する検討結果

口永良部島では、引き続き噴火の可能性があります、昨年（2015年）5月29日と同程度の噴火が発生する可能性は更に低下していると考えられます。

新岳火口から概ね2 kmの範囲では、噴火に伴う大きな噴石及び火砕流に警戒してください。また、向江浜地区から新岳の南西にかけての火口から海岸までの範囲では、火砕流に警戒してください。

口永良部島では2015年6月19日のごく小規模な噴火後、噴火は発生していません。

火映は観測されておらず、新岳火口の西側割れ目付近の熱異常域の温度も低下した状態が続いています。

新岳火口付近の火山性地震は、2014年8月の噴火前よりやや少なく、また火山性微動は観測されていません。

地殻変動観測では、新岳火口を挟むGNSSの基線長に、2016年1月頃から縮み傾向がわずかに認められ、5月以降は明瞭になり、2015年5月の噴火前から続いていた島の膨張状態が収縮に転じているとみられます。

また、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、1月以降は1日当たり50から200トンで、2015年5月の噴火前後より大幅に減少した値で経過しています。しかし、2014年8月の噴火前よりはやや多い状態です。

これらのことから、引き続き噴火の可能性があります、2015年5月29日と同程度の噴火が発生する可能性は、2016年2月の検討時より更に低下していると考えられます。

新岳火口から概ね2 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。向江浜地区から新岳の南西にかけての火口から海岸までの範囲では、火砕流に警戒してください。風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。降雨時には土石流の可能性があるので注意してください。